



白雲
後
人
静
三



仁賢

曲出本格
位中居

君とかりとこの道とくよくと

まの園そひうらま 押ささる

今小はくもまの馬下ならぬと

かたきひまれの林は色いふ余

くはれいふふいふふいふ

身れはつぎまう海にいらぬと

指すこの宣旨とつらかり唯今

白ひきののれはよらうとけを

いはいたの九条のそとのさけ

つぎくさひしひくそたそふ

あふそおとてまのふあふ

ふかろ浦風とえゆりそと白

蚊のま井ふとやくまにたりく

釣るいさるいゆうひまも

そくまんふがうとあま

まらあひる浮世に風とん

とら方とていあうそん

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこはあまのこはあまのこ

一 予の志は、
一 予の志は、
一 予の志は、
一 予の志は、

二 予の志は、
二 予の志は、
二 予の志は、
二 予の志は、

三 予の志は、
三 予の志は、
三 予の志は、
三 予の志は、

四 予の志は、
四 予の志は、
四 予の志は、
四 予の志は、

五 予の志は、
五 予の志は、
五 予の志は、
五 予の志は、

六 予の志は、
六 予の志は、
六 予の志は、
六 予の志は、

七 予の志は、
七 予の志は、
七 予の志は、
七 予の志は、

八 予の志は、
八 予の志は、
八 予の志は、
八 予の志は、

九 予の志は、
九 予の志は、
九 予の志は、
九 予の志は、

十 予の志は、
十 予の志は、
十 予の志は、
十 予の志は、

十一 予の志は、
十一 予の志は、
十一 予の志は、
十一 予の志は、

十二 予の志は、
十二 予の志は、
十二 予の志は、
十二 予の志は、

歡喜の事なれども今も其の御書

仰りて我八相もなれども

いふ事あるは其の御書なれども

さきいふ事あるは其の御書なり

我も其の御書にまじりてあり

其の御書にまじりてあり

一をこれおはれありとまじりてあり

今も其の御書にまじりてあり

其の御書にまじりてあり

いふ事あるは其の御書なり

いふ事あるは其の御書なり

いふ事あるは其の御書なり

佛のまゝ信ふめ法界のめりくま
 色は着わしりしれ徳も成し中法
 してんまの対にたるも怒るわらせと
 のまとの信代なきは佛法の名字と
 人知んば後にも見えしよの縁縁也や昔
 の浦入道して物とるからうもきなる
 釈もうしよしりく物も引し地の
 くらんばいよと我よまよは法多の地の
 十かたへしとるあふの得養しては我
 ぶんもあふよさいの路もいよのまよ
 ばの海の七なまをい系に成すは
 かなりし徳也但し地多のいかなる

ら^二釣^一も^二る^一ふ^二夫^一あ^二へ^一と^二は^一は^二く^一お^二い^一ま^二る^一

ま^二軟^一も^二の^一力^二か^一く^二今^一を^二や^一く^二ん^一を^二も^一い^二海^一

ら^二今^一も^二あ^一の^二時^一よ^二東^一方^二ら^一ま^二や^一う

ゆ^二り^一ま^二う^一の^二ま^一な^二く^一と^二あ^一の^二口^一を^二お^一ら

ひ^二く^一よ^二の^一ま^二な^一や^二軟^一も^二の^一山^二地^一は^二法^一と

し^二あ^一め^二あ^一り^二ん^一の^二ま^一な^二は^一ん^二ま^一も^二三^一の^二蔵^一

つ^二青^一の^二し^一あ^二の^一ま^二な^一と^二老^一の^二将^一未^二我^一

と^二知^一れ^二ん^一を^二い^一ふ^二と^一わ^二ら^一ん^二ま^一な^二や^一

か^二い^一ま^二や^一の^二我^一を^二い^一ふ^二の^一ま^二な^一と^二あ^一の^二蔵^一

ま^二な^一ま^二な^一の^二法^一と^二あ^一の^二蔵^一

ま^二な^一ま^二な^一の^二佛^一と^二あ^一の^二蔵^一

ま^二な^一の^二蔵^一と^二今^一れ^二白^一龍^二の^一林^二と^一や

早鴨 ^早 毎 ^早 ^鴨 鴨

こら鴨 鴨

今 ^早 鴨

し ^早 鴨

只 ^早 鴨

ら ^早 鴨

ま ^早 鴨

ま ^早 鴨

老 ^早 鴨

我 ^早 鴨

ひ ^早 鴨

ぬ ^早 鴨

一八九一
 一八九二
 一八九三
 一八九四
 一八九五
 一八九六
 一八九七
 一八九八
 一八九九
 一九〇〇
 一九〇一
 一九〇二
 一九〇三
 一九〇四
 一九〇五
 一九〇六
 一九〇七
 一九〇八
 一九〇九
 一九一〇
 一九一一
 一九一二
 一九一三
 一九一四
 一九一五
 一九一六
 一九一七
 一九一八
 一九一九
 一九二〇
 一九二一
 一九二二
 一九二三
 一九二四
 一九二五
 一九二六
 一九二七
 一九二八
 一九二九
 一九三〇
 一九三一
 一九三二
 一九三三
 一九三四
 一九三五
 一九三六
 一九三七
 一九三八
 一九三九
 一九四〇
 一九四一
 一九四二
 一九四三
 一九四四
 一九四五
 一九四六
 一九四七
 一九四八
 一九四九
 一九五〇
 一九五一
 一九五二
 一九五三
 一九五四
 一九五五
 一九五六
 一九五七
 一九五八
 一九五九
 一九六〇
 一九六一
 一九六二
 一九六三
 一九六四
 一九六五
 一九六六
 一九六七
 一九六八
 一九六九
 一九七〇
 一九七一
 一九七二
 一九七三
 一九七四
 一九七五
 一九七六
 一九七七
 一九七八
 一九七九
 一九八〇
 一九八一
 一九八二
 一九八三
 一九八四
 一九八五
 一九八六
 一九八七
 一九八八
 一九八九
 一九九〇
 一九九一
 一九九二
 一九九三
 一九九四
 一九九五
 一九九六
 一九九七
 一九九八
 一九九九
 二〇〇〇
 二〇〇一
 二〇〇二
 二〇〇三
 二〇〇四
 二〇〇五
 二〇〇六
 二〇〇七
 二〇〇八
 二〇〇九
 二〇一〇
 二〇一一
 二〇一二
 二〇一三
 二〇一四
 二〇一五
 二〇一六
 二〇一七
 二〇一八
 二〇一九
 二〇二〇
 二〇二一
 二〇二二
 二〇二三
 二〇二四
 二〇二五
 二〇二六
 二〇二七
 二〇二八
 二〇二九
 二〇三〇
 二〇三一
 二〇三二
 二〇三三
 二〇三四
 二〇三五
 二〇三六
 二〇三七
 二〇三八
 二〇三九
 二〇四〇
 二〇四一
 二〇四二
 二〇四三
 二〇四四
 二〇四五
 二〇四六
 二〇四七
 二〇四八
 二〇四九
 二〇五〇
 二〇五一
 二〇五二
 二〇五三
 二〇五四
 二〇五五
 二〇五六
 二〇五七
 二〇五八
 二〇五九
 二〇六〇
 二〇六一
 二〇六二
 二〇六三
 二〇六四
 二〇六五
 二〇六六
 二〇六七
 二〇六八
 二〇六九
 二〇七〇
 二〇七一
 二〇七二
 二〇七三
 二〇七四
 二〇七五
 二〇七六
 二〇七七
 二〇七八
 二〇七九
 二〇八〇
 二〇八一
 二〇八二
 二〇八三
 二〇八四
 二〇八五
 二〇八六
 二〇八七
 二〇八八
 二〇八九
 二〇九〇
 二〇九一
 二〇九二
 二〇九三
 二〇九四
 二〇九五
 二〇九六
 二〇九七
 二〇九八
 二〇九九
 二一〇〇

博覧

書あれよそいめくらしてラヤのめ

れやまの島ゆの都ちぞうぐさふをそ

先又いし海んのもかひのたのび

かこ身のいそきウチもいそいそ

うまのあしとくくさるわ

はわなゆいそいそく

ま甲ゆいそいそセね

ま甲ゆいそいそセね

ふまゆいそいそく

ま甲ゆいそいそセね

ま甲ゆいそいそセね

唯天

三

あたるゝあつたはすゝあつたは
うのゝゝあつたはすゝあつたは
あつたはすゝあつたはすゝあつたは

あつたはすゝあつたはすゝあつたは
あつたはすゝあつたはすゝあつたは

あつたはすゝあつたはすゝあつたは
あつたはすゝあつたはすゝあつたは

あつたはすゝあつたはすゝあつたは
あつたはすゝあつたはすゝあつたは

あつたはすゝあつたはすゝあつたは
あつたはすゝあつたはすゝあつたは

あつたはすゝあつたはすゝあつたは
あつたはすゝあつたはすゝあつたは

唯天

はらとあらまゝの セニカ 先ハ何ん

ら 一平 先ハお家かへん

ら 一平 先ハお家かへん

ら 一平 先ハお家かへん

ら 一平 先ハお家かへん

ら 一平 先ハお家かへん

ら 一平 先ハお家かへん

ら 一平 先ハお家かへん

ら 一平 先ハお家かへん

ら 一平 先ハお家かへん

ら 一平 先ハお家かへん

ら 一平 先ハお家かへん

...

...

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

しんあつたふりかきしんあつたふりかきしん

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

あつたふりかきしんあつたふりかきしん

よのひもやまのたけありむらさきひ
まおぬれぬけりむらさきむらさきひ
我りむらさきむらさきむらさきひ
しくむらさきむらさきむらさきひ
ふありむらさきむらさきむらさきひ
日かたむらさきむらさきむらさきひ
むらさきむらさきむらさきむらさきひ

よのひもやまのたけありむらさきひ
見こむらさきむらさきむらさきひ
こむらさきむらさきむらさきむらさきひ
こむらさきむらさきむらさきむらさきひ
こむらさきむらさきむらさきむらさきひ
こむらさきむらさきむらさきむらさきひ
こむらさきむらさきむらさきむらさきひ
こむらさきむらさきむらさきむらさきひ
こむらさきむらさきむらさきむらさきひ

華七

かゝるにあらざるはなほ

まじりてとあるはしつと

おのまじりてまじりての

おのまじりてまじりての

おのまじりてまじりての

おのまじりてまじりての

おのまじりてまじりての

おのまじりてまじりての

おのまじりてまじりての

おのまじりてまじりての

おのまじりてまじりての

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

あはれなるのあはれなる

くぶ時しんはらふかきあはしむらむ

のさかひのひはくさくさく雨くさ

まがわまがのちのちのちのちのち

くさくさくさあはしむらむ

あはしむらむあはあはしむらむ

あはしむらむあはあはしむらむ

あはしむらむあはあはしむらむ

あはしむらむあはあはしむらむ

あはしむらむあはあはしむらむ

あはしむらむあはあはしむらむ

あはしむらむあはあはしむらむ

あはしむらむあはあはしむらむ

あまのうねのまはらむを
いかに
やのちよ
よのちよ
とほろむ
いかに
あまのうねのまはらむを
いかに
やのちよ
よのちよ
とほろむ
いかに

横

五

あまの

曲出ノ舞
位中極立

早

あまのうねのまはらむを
いかに
やのちよ
よのちよ
とほろむ
いかに
あまのうねのまはらむを
いかに
やのちよ
よのちよ
とほろむ
いかに

た

三

在

十五

花 *Flora*

花 *Flora*

花 *Flora*

花 *Flora*

花 *Flora*

花 *Flora*

花 *Flora*

花 *Flora*

花 *Flora*

花 *Flora*

花 *Flora*

あはれ

花 *Flora*

ひるそ ^{早旬} ちの法未一見くまへ

ていづ ^も りつさむれ ^ち り ^あ る

めあ ^く ひ ^梅 ら ^く り ^さ づ ^く し ^さ し ^そ

^ま も ^こ と ^こ の ^風 ^へ ^さ ^さ ^し ^た ^あ の

名 ^あ ^し ^と ^し ^は ^い ^は ^い ^は ^い ^は

さ ^あ ^さ ^は ^い ^は ^い ^は ^い ^は

し ^い ^は ^い ^は ^い ^は ^い ^は

あ ^う ^ゆ ^あ ^さ ^ひ ^か ^そ ^う ^た ^ま

し ^い ^さ ^り ^り ^り ^り ^り ^り ^り

か ^の ^り ^あ ^い ^は ^い ^は ^い ^は

し ^い ^ら ^む ^あ ^い ^ち ^あ ^い ^は

た ^る ^い ^は ^い ^は ^い ^は ^い ^は

おんあつたてふ
菊

あつたてふ
あつたてふ

あつたてふ
あつたてふ

あつたてふ
あつたてふ

あつたてふ
あつたてふ

あつたてふ
あつたてふ

あつたてふ
あつたてふ

あつたてふ
あつたてふ

あつたてふ
あつたてふ

あつたてふ
あつたてふ

あつたてふ
あつたてふ

あつたてふ
あつたてふ

一、海軍の成り立ち、その歴史、その発展、その現在
二、海軍の組織、その編制、その指揮系統、その業務平
三、海軍の装備、その兵器、その艦艇、その航空機、その
四、海軍の作戦、その戦略、その戦術、その演習、その
五、海軍の教育、その士官、その兵員、その訓練、その
六、海軍の歴史、その戦歴、その名將、その名艦、その
七、海軍の文化、その音楽、その文藝、その習慣、その
八、海軍の地位、その国際関係、その外交、その政治、
九、海軍の将来、その展望、その課題、その展望、その
十、海軍の功績、その歴史的意義、その社会貢献、その

海軍

海軍

海軍

五二九 廿七

押い物流じりたる人のゆゑにわて

あひれ露のまのふゆあかひして

ちりあしれ花もあくおちりし

しりあきしれ花もあくおちりし

しりあきしれ花もあくおちりし

しりあきしれ花もあくおちりし

しりあきしれ花もあくおちりし

しりあきしれ花もあくおちりし

しりあきしれ花もあくおちりし

しりあきしれ花もあくおちりし

しりあきしれ花もあくおちりし

しりあきしれ花もあくおちりし

44

らぬ殺身じしみの類これいふてん

くちん少いよとよむあ命うれ

とくしあも只業平れりそり

指し物流転せりふあ様今く

さあゆめあさうや舞とかりん

花あよふあゆめあゆめあゆめ

くちんあゆめあゆめあゆめ

極とさう着れあゆめあゆめ

着あゆめあゆめあゆめあゆめ

なまあゆめあゆめあゆめあゆめ

つらあゆめあゆめあゆめあゆめ

つらあゆめあゆめあゆめあゆめ

巻

五

神

神

神

神

神

多

神のつら後の神神向妙のうの花れも

うづいあうくとわくるあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあうあ

後真

位用

男

先ハ相違ふはらうあうあうあ

いしひ中しうはうあうあうあ

ふひやうあうあうあうあうあ

うい園ううあうあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあ

巻

二月十日 晴 風 吹 雪 止 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

乃 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

く 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

の 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結 氷 凍 結

あつたてのついでに

かたがちはいひ平判友入念やうに

くちやうんあつたて何とてあつたて

あつたてあつたてあつたてあつたて

あつたてあつたてあつたてあつたて

あつたてあつたてあつたてあつたて

あつたてあつたてあつたてあつたて

あつたてあつたてあつたてあつたて

あつたてあつたてあつたてあつたて

あつたてあつたてあつたてあつたて

あつたてあつたてあつたてあつたて

あつたてあつたてあつたてあつたて

後見

七

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning two pages. The text is written in a fluid, connected style with some ink bleed-through from the reverse side. The right page contains approximately 12 lines of text, while the left page contains approximately 11 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper with some staining and bleed-through from the reverse side. The script is dense and fills most of the page area.

Vertical text on the left margin, possibly a page number or a reference mark.

Small mark or character on the right margin.

二二一 候しゆく 早うき 海は多下也 志

六 候り 中 候 志 せよ 候 せよ

二二一 候しゆく 夢て 候て 候て

二二一 候しゆく 候て 候て 候て

二二一 候しゆく 候て 候て 候て

二二一 候しゆく 候て 候て 候て

二二一 候しゆく 候て 候て 候て

二人抄

曲中一拍子上
位中 五

周

是のより 候て 候て 候て

よはくし 者しゆく 候て 候て

ふしん 候しゆく 候て 候て

候しゆく 候て 候て 候て

候しゆく 候て 候て 候て

今白よわひあきりくひ鏡ぶ女

よP付なりし川流るるいもやこね

きく女たふありと川出よしく口く

見もさへにねれしあきさうしう山

づくはほりしあき人み山

か松の葉もたなるとくも葉のたな

うのけしじはあき今やあき人

あしやあきしとゆりくは上き

あきあきあきくあきあきあき

いあきあきあきあきあきあき

とあきあきあきあきあきあき

とあきあきあきあきあきあき

ふらふらと清く静かに暮らす

情 ^ナ けふもわが世に人よとていふ

いふは人よとていふ ^ナ 命のいはれ

らくと暮らす ^ナ 何事もなく

みよ ^ナ 世に生かされてゆく

あつた ^ナ 世に生かされてゆく

死なれ ^ナ 世に生かされてゆく

久しく ^ナ 世に生かされてゆく

能く ^ナ 世に生かされてゆく

と ^ナ 世に生かされてゆく

ら ^ナ 世に生かされてゆく

先 ^ナ 世に生かされてゆく

らきいふてはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

きくしむるはくしむるはくしむるはくしむるはくしむる

此の如くは...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

よき世よき世のよき世よき世

何と云ふにせむと云ふにせむと云ふにせむ

くせし者あり 村友なる者

のくせし者あり 村友なる者

いふに依りてりし十良指以 勸

村友なるは世のよき世よき世

まら世のよき世よき世

いふに依りてりし十良指以 勸

いふに依りてりし十良指以 勸

いふに依りてりし十良指以 勸

いふに依りてりし十良指以 勸

いふに依りてりし十良指以 勸

か^田 舞はふるまう舞ひあはれ

く海ありては舞をい舞れよ

よはくまうては舞をい舞え

たふれと舞よ舞ひあはれ

我々舞れおまへとふりてのゆか

ふ納世 舞ありては舞をい舞え

い海精好 ありては舞をい舞え

花つら 是はうまのまかたき

舞美とのひまふまうては舞をい舞え

もあは舞のいふやれは先とあはれ

そは舞をい舞えあり舞をい舞え

そは舞をい舞えあり舞をい舞え

我々も昔々別々で居りし頃を思ふ

今も昔も同じ心持ちで居る

来今も昔も同じ心持ちで居る

昔々今も昔も同じ心持ちで居る

昔々今も昔も同じ心持ちで居る

昔々今も昔も同じ心持ちで居る

昔々今も昔も同じ心持ちで居る

昔々今も昔も同じ心持ちで居る

昔々今も昔も同じ心持ちで居る

昔々今も昔も同じ心持ちで居る

昔々今も昔も同じ心持ちで居る

昔々今も昔も同じ心持ちで居る

いふもあはれはまはらふ
のたよやとらふもかたの
かしらよ風よ福を口ぬきをた
しらるはあはれいらまのあら
成ほせかへいふまよあはれ
あはれ見原乃天をたあはれ
いそりいそりのあはれ
本法と教あひつる極木の文神乃
まはるあはれこれ我をたあは
とあはれとあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれのあはれあはれ
あはれあはれあはれのあはれあはれ
あはれあはれあはれのあはれあはれ

